

エコアクション21とは

産廃優良化の評価基準にも

認証取得は簡素で割安

産業廃棄物処理業者の優良化事業が今年度からスタートした。評価基準は「情報開示」が最大のポイントだが、これとは別に「環境保全の取組み」としては環境マネジメントシステムであるISO14001又はエコアクション21（EA21）の取得が条件になっている。とくにEA21はISO14001と比較して取得方法や費用の面からも「中小企業向き」と言われている。とはいえその中身について産廃業界は存外知らない。先般八王子市役所で行われたEA21の説明会を掲載することで理解の一助としたい。

8月19日に開催された八王子市役所主催のエコアクション21（以下EA21）の説明会は主に地域内の中小企業が対象。（財）地球環境戦略研究機関エコアクション21事務局の竹内事務局長とNPO法人杉並環境カウンセラー協議会の松木専務が講師に立ち約1時間半にわたりレクチャーを行った。

04年10月から 認証・登録制度に

EA21は一言でいうと「環境経営システムの構築」。1992年にリオデジャネイロで開かれた地球環境サミットを契機に、環境への自主的取組みの国際ルールとして1996年にISO14001が発効したが、日本国内では当時の環境庁が中小企業の環境への取組みを支援するためのプログラムとしてスタートさせた。これまでEA21は届出制だったが、2004年10月からは「認証・登録制度」になった。そ

れによって今後、EA21への取組み企業は相当増えるものと予測される。

二酸化炭素、廃棄物、排水量の把握は必須

EA21の取組み内容は環境省が策定した「ガイドライン」に記されているが、特徴は大きくみて次の3点。①中小企業でも容易に取り組める環境経営システム。②必要な環境への取組みを規定している。③環境コミュニケーション（環境報告）への取組み。



八王子市役所で開催されたEA21の説明会。廃棄物処理業者と思われる人々も参加していた。



エコアクション21

<エコアクション21ロゴマーク>

中小企業でも容易に取り組めるとは、簡易な環境経営システムとして規定していることがあげられる。負荷把握シートとして200を超える対策チェックリストがついていて、それにそってチェックを入れていけばよい。また必要な環境への取組みとして、「二酸化炭素排出量」「廃棄物排出量」「総排水量」の3分野の把握は必須となっており、これらを削減することに努める。「削減することで環境にもいいし、企業の光熱水費も低下する」（竹内事務局長）となる。

二酸化炭素排出量の把握はそれほど難しく考えることはない。購入電力に一定の係数を掛けることで出てくる。

三番目の特徴である「環境コミュニケーションへの取組み」とは、事業者が環境への取組み状況を公表するもの。取引先からの信頼を得るためにも必要不可欠の

要素となっており、環境活動レポートの作成と公表が必須条件として規定されている。

審査申し込みの前に 3～6ヶ月間取り組む

EA21のガイドラインは次の4つの大項目で構成されている。1.環境への負荷の自己チェックの手引き。2.環境への取り組みの自己チェックの手引き。3.環境経営システムガイドライン。4.環境活動レポートガイドライン。

環境システムガイドラインは「環境方針の作成」「環境関連法規等の取りまとめ・遵守の確認」など12項目がある。また環境活動レポートガイドラインは「環境目標とその実績」「主要な環境活動計画の内容」など数項目がある。

では実際に事業場が取り組む場合の手順はどうなるかというと、大雑把にいうと次の流れになる。

まずチェックシートリストに沿って環境負荷把握を行う。先に述べたとおり二酸化炭素・廃棄物・水使用量の把握は必須事項。

次に環境方針、環境目標、環境活動計画を策定する。たとえば3年間で二酸化炭素を5%減らすとか具体的に示す。

3番目としては、適用されている環境関連法規を整理し、遵守されているかの確認を行う。

ここまで終了すると計画に沿った具体的な取り組みを3～6ヶ月実施する。その後、経営者による評価・見直しや必要な指示を行い、3ヶ月～半年たったら環境活動レ

ISO14001とEA21の比較

	ISO14001	EA21
システムの特徴	PDCAサイクル	PDCAサイクル
環境報告書	義務なし	環境活動レポート
公開義務	環境方針	環境活動レポート
環境影響評価	方式自由	自己チェックリスト
環境活動評価	内容未指定	自己チェックリスト
内部チェック	内部監査員	自己チェック
外部チェック	外部審査員	外部審査人
認証・登録	審査員登録機関	EA21地域事務局
審査・登録料	数百万円	15～50万円
中間審査・登録料	数百万円	5～20万円
認証取得期間	2年以上	6ヶ月以上

ポートを作成し、EA21事務局ないしは地域事務局へ審査を申し込みという手順。

審査を申し込んで ボツになった例はない

審査に際しては審査人を指名する（現在全国に342人いる）。その分野を得意としたり、審査する事業所に近い人間を指名することができるのだ。

審査は原則1人で行う。はじめは書類審査、次に現場審査という手順で進む。書類審査から現場審査に入る間、審査人がアドバイスしてもいいことになっており、ここがISO14001と大きく異なる。

この後、判定委員会の審査を経て問題がなければ認証・登録が行われ、環境活動レポートの公表（5～6枚程度）となる。

これまでEA21に審査を申し込んだ事業者で「資料の差し替えなどはあったが、没になった例はひとつもない」（竹内事務局長）という。認証・登録されればEA21

のロゴマークを使用することができる。認証・登録期間は2年間で、登録1年後に中間審査、2年以内に更新審査を受審することになる。

認証取得費用も安い

EA21の認証取得はガイドラインによる自己チェックリストがあるため、それほど難しいものではなさそうだ。別表にISO14001とEA21の比較を示したが、これでわかるようにEA21の方が取得しやすく、取得までの期間も短い。また審査および認証登録に必要な費用もヒト術違う。費用の目安として従業員10人以下のサービス業の場合で約15万円、従業員300人以下の製造業の場合では40万円ほどになる。

産廃処理業者の優良化事業ではこうした環境マネジメントの取得が評価基準に入っており、業者が取得しやすいように「EA21の産廃版」を作成する動きもあるが、ベースになるEA21とそれほど変わらないものと思われる。